

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 レイマカナ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 18日		2025年 1月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	2024年 12月 18日		2025年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまの発達特性、保護者のニーズに合わせた活動支援プログラムの構築ができています。集団療育、個別療育からの多角的なアプローチができています。	小集団活動や1対1の個別対応と、子ども達が楽しく力を伸ばしてもらえるようプログラムの立案。	プログラムの立案を全員が意見やアイデアを出しやすくなるよう、話し合いの機会をより増やしていく。
2	チームワーク◎職場の風通しがよく、より良い支援ができるような意見交換が積極的にできています。	その日にあった出来事や気づいたことはちょっとした時間でも話し合ったり、コミュニケーションを円滑に行えるような職場の雰囲気大切にしている。	支援の中で気になった事や情報共有が必要だと感じたときは、ミーティング等を開いたり、情報共有ファイルを使用し全スタッフで周知できるようにしていく。
3	事業所での支援内容が明確に伝わるよう連絡帳アプリを利用し保護者様と情報の共有を図る事ができています。また面談の機会を定期的に設け保護者様とお子さまの健康や発達の状況について共通理解を深めることができています。	相談事には即時対応ができるよう心掛けている。場合によっては個別に面談の時間を設けたり、支援内容報告書の作成、電話での対応も行っている。	今後も、利用児に対する保護者との共通理解を深め、療育場面に活かしていく。保護者が相談しやすい関係性づくりに努め、相談内容を踏まえた適切な助言と支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会等の開催や保護者さま同士の交流の機会がまだ提供できていない。	開校してから日がまだ浅く事業所運営に注力していた為。	まずはアンケートを取り、保護者同士での交流を求めている保護者の人数やニーズの把握に努め、それを踏まえた、会の設定方法を考える必要がある。
2	非常災害の発生に備えた避難、救出その他必要な対応方法の周知がまだ浅く改善が必要である。	当法人全体での実施時に合わせて、当事業所も避難訓練等を行っているが、全職員(非常勤)利用児が参加できているわけではない。	可能な限り、全体実施以外の場でも定期的に訓練等に参加できる仕組みを考える必要がある。
3	職員のスキルアップの為の研修の機会が少ない。	開校してから日がまだ浅く事業所運営に注力していた為、研修の機会を設ける時間が限られていた。	業務内容の効率化を図り外部研修、オンライン研修の機会を設け専門的な研修を受ける事ができる機会を増やす。